

がんばる

Chubu

観光地域づくり編

長良川が育む多様な資源で エリアブランドの構築を目指す

昇龍道のモデルコース周辺で展開される「観光地域づくり」を紹介する特集。今回のエリアは岐阜県の長良川上・中流域（岐阜市、関市、美濃市、郡上市）。長良川に眠る地域資源を発掘し、エリアブランドとして構築・発信していく取り組みを紹介する。



長良川おんぱくで観光地域づくりのプラットフォームをつくる

清流長良川の資源を未来へつなぐための挑戦

日本三大清流の一つといわれる長良川。岐阜県郡上市の大日ヶ岳に源を発し、美濃市、関市、岐阜市を滔々と流れ、伊勢湾に注ぎ込む。川底には鮎が住まい、美濃和紙や刃物といった文化や産業、水の恵みに感謝する白山信仰などを育み、それらを資源として観光地が形成されてきた。

長良川流域の観光でまず思い浮かぶのは「長良川鵜飼」ではないだろうか。1973年のピーク時には30万人を超える乗船客数だったが、現在は10万人前後ま

で落ち込んでいる。その背景には、団体旅行・宴会といった男性中心の観光スタイルから個人・女性グループ中心の体験型観光への変化があげられる。

そこでしか体験できない地域に密着した観光が求められるようになってくると、流域に暮らし、生業を営む地域の人の力が不可欠となる。そのような時代の流れの中、「長良川おんぱく」（長良川温泉泊覧会）が2011年から始まった。長良川流域の市町村を舞台に地域資源を活用した体験プログラムを短期集中で開催する催しだ。

「オンパク」って何？

温泉泊覧会（通称：オンパク）とは2001年に大分県別府市で誕生し、プログラムと呼ばれる小さな体験イベントを多数集め、短期間に開催するもの。プログラムを準備・提供するのは地域の人たちで、パートナーと呼ばれる。2010年設立の（一社）ジャパン・オンパクでは、組織のつくり方、プログラムの企画から運営、ガイドブック作成、ITを使った予約システムなど、オンパク手法と呼ばれるノウハウを教えている。オンパク手法は、地域に眠る多くの資源を発掘し、地域の多数の関係者を巻き込んだプラットフォームとして各地で定着している。長良川おんぱくでは、「長良川船遊び」「老舗和菓子屋で鮎菓子づくり」「漁舟エコツアー」など100を超える体験プログラムを毎年秋に開催している。



長良川の遊宴文化を体験できる人気プログラム
「長良川船遊び」

地域に愛着と誇りを持つ人を増やすために

長良川おんぱくを仕掛けたのは、岐阜市に拠点を構え活動するNPO法人ORGAN^{オルガン}理事長の蒲^{かば}勇介さん(37)。長良川流域のまちづくりを語るときに外せないキーパーソンだ。蒲さんがまちづくりを支援することになったきっかけは、「岐阜なんてなにもない」という若者が多かったことから。それは気づいていないだけで、地域に眠る魅力を発掘してプロデュースすることにより、地域への愛着と誇りを醸成し、その結果として外部からの評価も得ることができればと考えた。



NPO法人ORGANメンバー(左端が蒲さん)
現在常勤スタッフ7名と約60名の会員で運営

ORGANが法人化したのは2011年だが、実質的な活動は2003年から行っている。岐阜の魅力を発掘するフリーペーパー「ORGAN」の発

行、材料をつくる職人がいなくなり途絶えていた伝統工芸品「水うちわ」の再生などをまず手掛けた。この時、長良川の水運が美濃和紙を運び、岐阜市で和傘・提灯・団扇がつくられるといった、岐阜市は岐阜市だけで成り立っているのではなく、長良川が育んだエリアだというストーリーを発見した。それ以来、ORGANは長良川流域を対象エリアとして活動している。

2010年には、ORGANの活動に着目した岐阜市教育委員会からの委託事業で、地域のストーリーを体験する「古今金華町人ゼミ」を開催した。町家めぐり、座禅、お座敷遊びなど、内容は後の長良川おんぱくの体験プログラムにつながるものばかりだった。

流域住人が主役の観光を活かしたまちづくり

蒲さんは、まちづくりに携わっていくにつれ、長良川流域の自治体や観光協会などの連携が不十分なため、情報の発信に統一感がなく、ブランド化ができていないことがわかった。それをなんとかしたく、川漁師、地場産業関係者、地元のまち歩きができる人といった長良川流域の住人を巻き込み、一般には知られていない地域資源を発信するプラットフォームとして2011年に長良川おんぱくをスタートした。

初回は信用も実績もなかったため、岐阜県から緊急

雇用の助成をもらい岐阜長良川温泉旅館協同組合が主体となり、組合に間借りするという形でORGANが運営を担った。1年

目で圧倒的な成果を出すことを目標に取り組んだ結果、開催期間1カ月、100プログラムで約3,200人が参加。定員充足率は約8割という実績をあげ、認知度を高めることができた。6回目の昨年は開催期間2カ月、大型イベントも含めた150のプログラムで約1万5,000人が参加するまでファンが増えた。日本で約80あるオンパクの中で最高の数字だと蒲さんは言う。

その効果は長良川温泉という既存の観光資源にも影響を与えた。これまでずっと圏外だった「にっぽんの温泉100選」(観光経済新聞)のランキングが、長良川おんぱく開始以降30~50位代を維持するようになり、エリアブランドの価値は確実にあがった。

長良川おんぱくの成果は集客数だけじゃない

長良川おんぱくには、パートナーが提供するプログラムをテストマーケティングして商品化する機能がある。小規模でプログラムを開催するためリスクが少なく、地域で活躍してみたいという人たちがパートナーを担うきっかけになりやすい。プログラムから派生したグループ「Experience Gifu」は、外国人向け旅行Webサイトでまちなかツアーの販売や、昇龍道プロジェクト推進協議会が主催する旅行会社の下見招待旅行の受け入れなどを実施している。また、古今金華町人ゼミをリニューアルした「長良川みちくさゼミ」では、長良川おんぱくで体験プログラムをつくるコーディネーターを養成している。これらは結果として、地域づくりの主体となる人材の発掘にもつながっている。



チームで考えた体験プログラムを発表する長良川みちくさゼミの受講者、自分たちでつくりあげたプログラムを実際に準備・実行していく

地域の課題解決に向け多様な主体が連携

観光調査から見てきた流域の課題

長良川おんぱくの運営を通じ広大なエリアでネットワークを築いてきたORGANは、このつながりをもっと活用したプロモーションはできないかと模索し始めた。そもそも長良川流域をエリアとした観光客のデータが取れていなかったため、それを調査し、マーケティングしていこうと考えた。

その取り組みとして、経済産業省の2015年度地域イノベーション協創プログラム事業に採択され、長良川上・中流域(岐阜市、関市、美濃市、郡上市)の観光マーケティング調査と流域をつなぐ体験ストーリーや観光戦略を策定した。

調査結果によると、大半の観光客が愛知県からの日帰りで宿泊率が低いことや、1回の旅行で複数市を訪問する比率がたったの1割ということがわかった。2014年にユネスコ無形文化遺産に「本美濃紙」が登録され、翌年にはFAO(国連食糧農業機関)の世界農業遺産に「清流長良川の鮎」が認定。加えて、長良川おんぱくによる流域のブランド力が向上し、さらなる誘客と周遊が期待される中での厳しい結果だった。

官民協同の観光地域づくりが始まる

世界農業遺産の認定を契機に、長良川流域の資源をめぐるエリアブランドを構築し、周遊・滞在させる仕掛けづくりと情報発信、流域が一体となった観光地域づくりを推進するために、昨年4月「長良川流域観光推進協議会」が発足した。協議会の構成は、岐阜県、長良川上・中流域4市、観光関連団体。ORGANは官民推進組織と連携して地域の課題解決に取り組んでいる。

協議会との連携事業では、情報ツールとして、流域



昨年度は21の常時提供可能な体験プログラムを造成
(写真は美濃市で開催されるカヤック体験)

の世界観そのものを伝える「長良川STORY」と題した流域周遊ガイドブックの発行と公式ホームページを開設。旅行商品として、常時提供可能な体験プログラムや交通事業者・宿泊事業者と連携した商品を造成・提供した。中でも岐阜舞妓が長良川鉄道の観光列車



大好評企画「舞妓列車」は今年度も開催する予定
(写真は昨年度のチラシ)

「ながら」でおもてなしをする「舞妓列車」は多くのメディアに取り上げられ人気を博した。また、モバイルスタンプラリーを実施するとともに周遊性や宿泊など観光客の動向情報を把握し、調査・分析することで、より効果的なプロモーションが可能な事業展開につなげていく。

新たな戦略で流域の魅力をさらに発信

ORGANは今年度、観光マーケティングに特化した新しい法人を設立し、長良川をブランディングしながら、そこに紐づいた地域資源や強みの体験観光を販売していく計画を立てている。まちづくりや人材育成の支援をORGANで、観光マーケティングを新法人で担っていく予定だ。それに伴い、これまで短期集中開催の長良川おんぱくを、7月から通年型にして事業を拡大する。一方、協議会との連携をさらに強化し、滞在時間を延ばす、周遊者・宿泊者や観光消費額を増やすといった課題解決に向けて取り組んでいく。

長良川が育んだ地域資源を掘り起こし、その魅力を発信していくことで、流域に暮らし、生業を営む人たちに地域に対する愛着と誇りが芽生えた。ORGANの取り組みは、観光客だけでなく、観光に携わる人たちみんなが充たされる新しい価値をつくりあげたと言える。そして、多様な主体が連携を始めた今、長良川流域を舞台とする観光地域づくりはますます加速していくことだろう。

文：企画部 櫻井 景子
取材協力：NPO法人ORGAN、岐阜県
写真提供：NPO法人ORGAN



長良川ブランドを 体験しに行こう！

体験プログラムの内容、開催日、定員等の詳細については、
「長良川STORY」公式ホームページ
(<https://www.nagaragawastory.jp>)をご覧ください。
NPO法人ORGANまでお問い合わせください。
[NPO法人ORGAN] TEL:058-269-3858
MAIL:info@nagaragawastory.jp

刀の町、関で刀匠の技に 触れよう

料 金:500円～50,000円
(コースによる)
案 内 人:関伝日本刀鍛錬技術保存会
刀匠部会 吉田 研さん
集合場所:関鍛冶伝承館、他
関市南春日町9-1、他



MAP 3

川漁師のおもてなし 漁舟ツアー

料 金:大人8,000円(高校生以上)
子ども6,500円
(小学1～中学3)
案 内 人:結の舟代表 平工 顕太郎さん
集合場所:「長良川うかいミュージアム」
前の川岸
岐阜市長良51-2 地先



MAP 4



水辺の城下町散策ツアー

料 金:大人1,000円
子ども(小中学生)800円
案 内 人:郡上八幡まちなみ観光案内人
集合場所:郡上八幡旧庁舎記念館
郡上市八幡町島谷520-1

MAP 5



うだつの上がる町並みで 美濃を味わう

料 金:無料 ※施設入館料等は別途必要
案 内 人:美濃市町並み案内ボランティアの会
集合場所:旧今井家住宅・美濃史料館
美濃市泉町1883

MAP 6



関市観光名所、旧跡ガイドツアー

料 金:無料 ※現地までの交通費は別途必要
案 内 人:せきガイドグループ
せきボランティア・ガイドの会
集合場所:案内人への予約時にお決め
ください

MAP 7



日本遺産をめぐるまちあるき

料 金:1,000円 ※施設入館料等は別途必要
案 内 人:岐阜市まちなか案内人
集合場所:岐阜公園総合案内所
岐阜市大宮町1丁目

MAP 8

清流長良川を下る サイクルクルーズ

料 金:大人6,000円
(18歳以上)
案 内 人:(株)アプト
瀬木 大輔さん
集合場所:長良川鉄道 郡上八幡駅
郡上市八幡町城南町
188-54

MAP 1



鵜籠職人の竹編み講座・ 六つ目編みのかごづくり

料 金:3,500円/1個
案 内 人:NPO法人グリーンウッド
ワーク協会竹部会
安藤 千寿香さん
集合場所:吉田工房
(旧今井家住宅隣)
美濃市泉町1880

MAP 2

